

教育長報告事項資料

一般事務報告

- 1 登別市・海老名市小学生受入事業（8/3～8/4）（学校管理課長）
- 2 文部科学省幼児教育課調査官講演会（8/7）（教育専門監）
- 3 文部科学省学校魅力化フォーラム講演（8/9）（教育専門監）
- 4 市議会臨時会（8/10）（学校管理課長）
- 5 教育委員会事務点検・評価外部評価会（8/10）（学校管理課長）
- 6 教育における情報通信の利活用促進を目指す超党派国会議員連盟：
教育ICT議連と市区町村 首長・教育長との意見交換会（8/24）（教育専門監）

専決事務報告

- 1 白石市立中学校修学旅行費補助金交付要綱について（学校管理課長）

その他

- 1 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について（学校管理課長）
- 2 その他

白石市立中学校修学旅行費補助金交付要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、本市の中学校生徒が本市先人の成した功績を学び、もってシビックプライドの醸成に寄与する修学旅行に要する経費に対し、白石市立中学校修学旅行費補助金（以下「補助金」という。）を予算の範囲内で交付することについて、白石市補助金等交付規則（平成17年白石市規則第3号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(補助対象者等)

第2条 補助対象者は、白石市立中学校の校長とし、補助金の交付の対象となる修学旅行（以下「補助対象事業」という。）は、白石市立中学校が実施する修学旅行のうち、行程に札幌市白石区及び登別市の両方又は片方を含み、本市生徒のシビックプライド醸成に寄与すると市長が判断する訪問先が含まれているものとする。

(補助金の限度額)

第3条 補助金の限度額は、補助対象事業に参加した生徒一人当たり25,000円とする。

(補助金の交付申請)

第4条 この補助金に係る交付申請は、白石市立中学校修学旅行費補助金交付申請書（様式第1号）に次に掲げる書類を添えて、校長が所定の期日までに申請するものとする。

- (1) 事業計画書
- (2) 収支予算書
- (3) 修学旅行参加者名簿

(補助金の交付決定)

第5条 市長は、前条の規定による申請があったときは、規則第6条の規定に基づき審査を行い、補助金を交付することが適当と認めたときは、白石市立中学校修学旅行費補助金交付決定通知書（様式第2号）により当該校長に通知するものとする。

(実績報告)

第6条 前条の交付決定通知を受けた校長は、事業終了後、速やかに白石市立中学校修学旅行費補助金実績報告書（様式第3号）に次に掲げる書類を添えて市長に提出しなければならない。

- (1) 事業報告書
- (2) 収支精算書
- (3) 修学旅行参加者名簿
(補助金の額の確定)

第7条 市長は、前条の規定による実績報告書を受領したときは、規則第16条の規定に基づき調査を行い、交付決定の内容及びこれに付した条件に適合すると認めるときは、交付すべき補助金の額を確定し、白石市立中学校修学旅行費補助金の額の確定通知書（様式第4号）により当該校長に通知するものとする。

(補助金の請求及び交付)

第8条 補助金は、前条規定により交付すべき補助金の額を確定した後に支払うものとする。ただし、必要があると認められる場合には、規則第18条第1項ただし書の規定により、概算払いをすることができるものとする。

2 校長は、前項の規定により補助金の支払いを受けようとするときは、白石市立中学校修学旅行費補助金（概算払）請求書（様式第5号）を市長に提出しなければならない。

(補助金の返還)

第9条 この補助金の趣旨に反して交付を受けたと認められるときは、市長は直ちに補助金の全部又は一部を返還させることができる。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、補助金の交付に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この告示は、令和 年 月 日から施行する。

様式第 1 号(第 4 条関係)

年 月 日

(あて先) 白石市長

白石市立 中学校
校長

白石市立中学校修学旅行費補助金交付申請書

白石市立中学校修学旅行費補助金交付要綱第 4 条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり申請します。

記

交付申請額 金 円
(円× 人= 円)

添付書類 ・ 事業計画書
・ 収支予算書
・ 修学旅行参加者名簿

（令達先）

申請者 学校名
校長氏名

年 月 日付けで申請のあった白石市立中学校修学旅行費補助金については、白石市補助金等交付規則第8条及び白石市立中学校修学旅行費補助金交付要綱第5条の規定により 円を交付します。

年 月 日

白石市長 印

記

1 事業名 白石市立中学校修学旅行費補助金

2 交付決定額 円

3 条件

- (1) 補助金をこの事業の目的外に使用してはならない。
- (2) 補助事業等の内容又は補助事業等に要する経費の配分等の変更をしようとする場合には、市長の承認を受けること。
- (3) 補助事業を中止し、又は廃止しようとする場合には、市長の承認を受けること。
- (4) 補助事業等が予定の期間内に完了しない場合又は補助事業等の遂行が困難となった場合においては、速やかに市長に報告してその指示を受けること。

様式第4号(第7条関係)

白石市立中学校修学旅行費補助金の額の確定通知書

年 月 日

学校名

校長氏名 様

白石市長 印

年 月 日付けで実績報告のあった白石市立中学校修学旅行費補助金の額を、白石市立中学校修学旅行費補助金交付要綱第7条の規定により、下記のとおり確定したので通知します。

記

1 確定額 金 円

様式第5号（第8条関係）

白石市立中学校修学旅行費補助金（概算払）請求書

年 月 日

（あて先）白石市長

申請者 学校名

校長氏名

印

年 月 日付け第 号で補助金の交付決定通知のありました
白石市立中学校修学旅行費補助金について、白石市立中学校修学旅行費補助
金交付要綱第8条の規定により下記のとおり請求します。

記

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| 1 | 交付決定額 | 円 |
| 2 | 受領済額 | 円 |
| 3 | 請求額 | 円 |
| 4 | 振込先 | _____銀行（金庫）_____店 |
- 普通・当座
（フリガナ）
口座名義 _____
口座番号 _____

教育に関する事務の点検・評価報告書

(令和4年度実施事業)

令和5年9月
白石市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条
第1項の規定により別紙のとおり報告します。

令和5年9月1日

白石市教育委員会

教育長 半 沢 芳 典

令和4年度白石市教育方針と重点取組

白石市教育方針

教育基本法に基づき、本市の幼児・児童・生徒に生きる力（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を育成するとともに、一人一人の生涯にわたる学習の充実と家庭や地域社会の教育力の高揚を図り、さらに伝統文化の尊重や誇りをもって生きる市民を育成し、「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」の実現を期する。

○ 重点取組

基本方向1 夢や志をかなえる力の育成

- ① 全国学力・学習状況調査の平均正答率を全国平均以上にすることを旨とした授業改善と家庭学習改善及び非認知能力の育成
- ② 学校・幼稚園の特色や探究の対話（p4c）を生かした教育課程の編成と実施
- ③ 教育課程特例校（英語特区）を生かした英語教育の充実とコミュニケーション力の向上
- ④ SDGs（持続可能な開発目標）を達成しようとする児童生徒を育成するためのESD教育の推進
- ⑤ 1人1台端末（GIGAスクール）環境を生かした授業でのICT活用の増大及び家庭学習での積極的な利用
- ⑥ 英語教育、暗唱活動を取り入れた幼児教育の充実と預かり保育等の保育サービスの充実
- ⑦ 暗唱読本を取り入れた教育活動の充実

基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな体の育成

- ① 発達の段階と各学校の特色を生かした志教育の実践
- ② 保護者と連携した望ましい生活習慣の確立
- ③ 市の図書館と連携した読書活動の推進
- ④ 教育支援センターの有効活用と不登校特例校の設立に向けた準備
- ⑤ 中学校における部活動の更なる改善

基本方向3 障がいのある子どもへのきめ細やかな教育の推進

- ① 個の実態に応じた多様な学びの場（通常の学級、通級による指導、特別支援学級等）が選択できる環境の整備
- ② 関係機関やコーディネーターによるサポート体制の充実

基本方向4 信頼され魅力ある教育環境づくり

- ① 少子化に伴う学校教育のあり方の検討
- ② 白石市立小中学校情報セキュリティ対策基準の遵守徹底
- ③ 子どもの安全安心確保のための学校安全の充実と安全・防災教育の確実な実施

基本方向5 生涯にわたって成長するための学習・スポーツの支援

- ① 生涯学習の推進とスポーツ環境の充実
- ② 地区公民館職員としてのスキルを高める研修機会等の充実
- ③ 「総合型地域スポーツクラブ」の創設促進
- ④ 市民のニーズに応える図書館サービス（電子図書館等）の工夫

基本方向6 地域みんなで未来を担う子どもを育む

- ① 地域学校協働活動への理解と地域参画の促進
- ② 社会体験・自然体験・世代間交流を取り入れたプログラムの充実によるシビックプライドの醸成

基本方向7 歴史遺産・伝統文化の継承と活用の推進

- ① 歴史遺産・伝統文化の記録化と活用及び情報発信の推進
- ② 博物館の早期建設に向けた資料収集、資料整理、教育普及活動の実施
- ③ 文化芸術団体・文化財関連団体の育成と活動支援

令和4年度 白石市教育施策

学校教育の充実

1 創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進

(1) 創意ある教育課程の編成

- 市内の特色や2学期制の利点を生かし、各学校の実態に即した教育課程の編成と実施に努める。
- 小・中学校の接続を意識した年間指導計画の作成に努める。
- 探究の対話（p4c）を生かした教育課程の編成に努める。
- 児童・生徒に求められる資質・能力を地域社会と共有し、社会に開かれた教育課程の編成に努める。
- 1人1台端末環境を有効に活用した教育活動の実施に努める。
- 暗唱読本を取り入れた教育活動の充実に努める。

(2) 志教育の推進

- 教育活動のさまざまな場面で、人間として、社会人として、市民としての在り方や生き方、そして誇りを考えさせる場を意識的に設定する。
- 児童・生徒の能力・適性を多面的に把握し、適切な進路指導を進める。
- 発達段階に応じた勤労観や社会性を身に付けさせ、自らの生き方について主体的に探求していく力を伸ばす。

(3) 学習指導の充実

- 児童・生徒の個性や能力及び適性等を重視した学ぶ側に立つ授業づくりに努める。
- 児童・生徒に基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、主体的・対話的で深い学びを育む授業づくりに努める。
- 「白石市学力向上グランドデザイン」に則り、児童・生徒一人一人に確かな学力を定着させるPDCAサイクルの確立を図る。
- 学力・学習状況調査等を踏まえた授業改善、つまずき解消の取組と個別最適化の実践を図る。
- 今日的な課題や地域、児童・生徒の実態を踏まえ、育てたい力を明確にした総合的な学習の時間の改善に努める。
- 教育課程特例校（英語特区）の指定を受け、本市独自の教育課程を生かした英語教育の充実を図る。
- 中学校区を単位とした小・中学校協働による授業づくりをとおして、知的好奇心を高め、学習意欲の高揚を図る。
- 課題意識をもって計画的・継続的に家庭学習に取り組むことができるように発達段階に応じた指導の工夫を図る。

(4) 学校体育・学校保健の充実

- 生涯にわたり健康で活力ある生活が送れるよう、健康の保持増進と体力・運動能力の向上を図る。
- 感染症等の情報に敏速に対応し、感染防止と罹患者への適切な指導に努める。

(5) 学校給食の充実と食育の推進

- 地場産品を食材とした学校給食の充実を図り、安全で安心な給食を提供する。
- 衛生管理水準の向上に努め、施設の整備や維持管理に取り組む。
- 栄養教諭・栄養職員による、学校給食をとおした指導を行い、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせる。
- 「食物アレルギー対応ガイドライン」に基づき、食物アレルギーを正しく理解し、学校全体で共通理解を図り、適切な対応を行う。

(6) 国際理解教育、姉妹都市交流の推進

- 外国語指導助手（ALT）の効果的活用や小・中学校及び高等学校との効果的連携をとおして、児童・生徒に国際的な視野と感覚及び英語による実践的コミュニケーション力を身に付けさせる。
- 国内外姉妹都市等との児童・生徒交流活動の推進を図り、相互理解と友好を深める。

(7) 情報教育の推進

- 発達段階に応じて、言語能力、情報活用能力（情報を主体的に収集・判断・処理・編集・創造・表現し、発信・伝達できる能力）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を教科横断的に育成する。
- 情報活用能力を、各教科の特質に応じて適切な学習場面で育成する。
- 各教科において、コンピュータやインターネット等の情報手段を主体的に活用し、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力の育成を図る。

(8) 環境教育の推進

- 省エネルギー活動やリサイクル活動、自然愛護などの実践を計画的に行い、よりよい環境づくりに取り組む態度の育成に努める。
- 太陽光発電システムを利用して、省エネルギー、省 CO2 の効果や仕組み等を体感させ、環境教育の推進を図る。
- ユネスコスクール推進校として、世界共通の新しいものさしである SDGs（持続可能な開発目標）の価値を全教育活動に取り入れるよう努める。

(9) 福祉・人権教育の推進

- 全教職員の共通理解のもとに福祉・人権教育推進のための校内体制を充実させ、家庭や地域との連携を図る。
- 共生や福祉の心の大切さを理解させ、特別活動等をとおして態度や実践力の育成に努める。

(10) 文字・活字文化の振興

- 活字に触れる機会を増やし、児童・生徒の活字文化の理解と読書活動の推進を図る。

(11) ふるさと教育の推進

- 地域の文化財や史跡等を学ぶ活動をとおして、積極的に市内外の文化や伝統に親しむ児童・生徒を育てる。
- 学校教育の活動全体をとおして、白石市と地元地区を知り、ふるさとを愛し、その発展に寄与する児童・生徒を育てる。

(12) 小規模校の充実

- 小原小・中学校においては小中一貫校のメリットを生かし、特色ある教育活動を展開する。
- 自然豊かな小規模校において、きめ細やかな個別指導による学力向上を図るとともに、地域の特色を生かした活動による豊かな人間性を養う。

(13) 特別支援教育の充実

- 就学先を決定するにあたっては、就学相談等をおして様々な情報提供を行い、実態に応じた適切な就学指導に努める。
- 保・幼・小・中・支援校の連携をおして支援の充実に努める。
- 特別支援教育コーディネーターを核として他の機関との連携のもと、相談活動をおして特別な支援を必要とする児童・生徒の理解を深めるとともに、「すこやかファイル」の啓発と活用に努める。
- 障がいの種類や程度に応じた合理的配慮に努め、「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」の作成と実践、並びに教育のユニバーサルデザイン化を推進し、児童・生徒のさまざまな教育的ニーズに対応する。
- 障がいのある児童・生徒と障がいのない児童・生徒が共に学ぶ場や自らの可能性を最大限に伸ばすことのできる学びの場など、多様な学びの場の充実に努める。

(14) 幼児教育の充実

- 一人一人の幼児が伸び伸びと活動し、豊かな体験が得られる環境をおして行う教育に努め、幼児期の特性に応じた指導を推進する。
- 幼児を取り巻く環境の変化を踏まえ、家庭や地域と連携しながら集団活動の中で基本的な生活習慣の形成を図り、集団活動の中で善悪の判断を身に付けさせることにより、生きる力の基礎となる社会性や道徳性の芽生えを培う。
- 周囲の環境（物的環境、人的環境、自然環境）に主体的にかかわる体験をおして、心豊かな幼児の育成を図る。
- 市内共通のアプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムにより、保・幼・小相互の円滑な接続を図る。
- 預かり保育の実施により、園児の心身の健全な発達を図るとともに保護者の子育てを支援する。

2 豊かな人間性を育む「心の教育」の推進

(1) 道徳教育の推進

- 「特別の教科 道徳」において、多面的・多角的に深く考えたり、議論したりする授業展開の工夫に努める。
- 探究の対話（p4c）の理念を取り入れた授業により、安心をベースとした対話ができるようにする。
- 自然とのふれあいや社会奉仕、福祉などの豊かな体験活動を積極的に取り入れる。
- 美しいものや崇高なものに感動し、真・善・美に触れることのできる多様な体験活動を推進する。

(2) 生徒指導の充実

- 積極的な生徒指導をもとにした、問題行動やいじめの未然防止に努める。
- 教師と児童・生徒との心の通い合う人間関係をつくり、共感的な指導に努める。
- 信頼関係の構築を基盤とした指導に努める。
- 善悪の判断を、機会を逃さず、適切かつ確実に指導する。

- 不登校児童・生徒を中心に据えた支援に努める。
- 児童・生徒の悩みや不安の早期発見に努め、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、教育支援センタースーパーバイザー並びに関係諸機関との連携を密にした相談・支援体制を充実させる。

(3) 情報モラルの育成

- 地域・家庭・学校が一体となって児童・生徒を「ネット犯罪」から守るために、地域・家庭等に対して、ネットを通じた有害情報や対策等について、様々な機会を通して啓発を図る。
- 児童・生徒の発達段階及び情報機器の活用に応じて、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を、各教科の指導の中で情報活用能力の学習と合わせて指導する。

3 学校・家庭・地域が連携した「開かれた学校づくり」の推進

(1) 学校経営の充実

- 保護者や地域住民に対して学校の教育目標や方針などを説明しながら理解と協力を得、学校及び地域の自然・文化・人材を活かした学校づくりに努める。

(2) 家庭教育の充実

- 「白石市子どもを育てるヒント集（小学校編・中学校編）」の活用、「家庭の日」や「ノーメディアデー」の促進、「青少年健全育成市民のつどい」への参加の奨励を図り、家庭教育の在り方に関する学習の機会を充実させる。
- 学力向上には、家庭教育も重要であることを呼びかけ、学校と家庭とが両輪となって取り組むよう働き掛ける。
- 安心感を持たせる家庭環境づくりや非認知能力（協調性、自制心、やり抜く力等）向上の必要性等について情報発信し、家庭の教育力を高めるよう働き掛ける。

(3) 幼児教育の支援

- 幼稚園と保育園及び小学校（低学年）間の連携と相互理解を深めながら、子育て支援体制づくりを推進し、保・幼・小連携推進委員会の一層の充実を図る。
- アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムを見直し、その活用を図り、保・幼・小相互の円滑な接続を図る。

(4) いじめ等防止対策の推進

- 「白石市いじめ防止基本方針」を徹底し、いじめの未然防止や問題行動の早期発見と早期対応に努めるとともに、児童・生徒の活動をとおして、いじめ根絶の意識を高める。
- 「白石市いじめ防止大会」で採択された、「いじめゼロ運動」（毎月10日）をとおして、いじめの未然防止やいじめ根絶の推進を図る。
- 幼児期における「いじめ」態様の早期把握に努め、適切な対応を図る。

(5) 安全教育の徹底

- 児童生徒の安全を第一に考えた管理体制の整備に努める。
- 学校・家庭・地域が連携し、学校安全、防犯、防災、交通安全等の意識を高めるために自ら考える教育活動を取り入れる。
- 危険箇所や通学路などの安全点検を組織的、計画的に行う。特に東日本大震災を教訓とし災害時の対応等、防災教育の充実を図り、実効性のある防災体制づくりを行う。（「学校・地域防災連絡協議会」の活用）

- 登下校時の安全を図るため、スクールパトロール隊や通学路巡視員等と協力し、児童・生徒の安全確保の支援に努める。
- P S C (Police Student Cooperation) パトロールなどの取組を活かして、児童・生徒の地域安全への意識を高める。

4 学校力向上を図る研修の充実

(1) 「学校力」向上を図る研修の充実

- 管理職の自覚と覚悟を促し、児童・生徒管理、教職員管理、教育課程管理、施設整備管理、学校事務管理を強化する。
- 各校の実態に応じて、意識的なO J Tを実施する。
- 組織マネジメントや危機管理等の研修を深め、組織として機能する学校づくりに努める。

(2) 「教師力」向上を図る研修の充実

- 学校の実態に応じて、学校毎に「教職への情熱」「授業力」「学級経営力」「生徒指導力」「総合的な人間力」等のバランスのとれた研修に努める。
- 白石市の課題解決に向けた具体的な研修に努める。

(3) 情報教育研修の充実

- 教科のねらいを達成するために、I C T (情報や通信に関する技術の総称) を効果的に活用した指導方法についての研修の充実を図る。
- 情報活用能力と学力の関係を理解し、児童・生徒の知識・技術の確実な定着とともに、思考力・判断力・表現力を高めるための研修の充実を図る。
- 校務用コンピュータを活用した校務の効率化を進めるとともに、情報管理の徹底を図る。
- 1人1台端末等を使用した授業づくりのため、指導主事を有効に活用して、教員の資質向上を図る。

(4) 心身の健康管理

- 市民の期待と信頼に応え、創意と活力に満ちた教育活動が展開できるよう、文部科学省報告の「学校現場における業務改善のためのガイドライン」及び「学校現場における業務の適正化に向けて」を活用し、教職員の健康増進と福利厚生に努める。

社会教育の充実

1 社会教育推進体制の充実

(1) 市民の生涯の成長を促す社会教育の推進

- 公民館等の社会教育施設を拠点に、いつでも誰でも気軽に集い学び合うことや、個人の自己実現に向けた学習を支援する。
- 各種団体や地域住民等との連携強化を図り、市民の学習成果が地域等で生かせるような場のコーディネートを行う。
- 人口減少や少子高齢化の中でも、地域が話し合いと学び合いを重ねてより良い地域づくりを目指す力の向上を目指す。

- コロナ禍などにおける新たな学習機会として、様々な世代がリモートで繋がる機会や、そのためスキルを学ぶ機会を設ける。
- (2) 地区公民館の社会教育の推進
- 指定管理者制度により地域主導で運営されている地区公民館においても、市民の生涯を通じた成長への要求に応えられるよう、地域の特色を生かした公民館事業や社会教育の推進、共同学習を支援する。
 - 公民館職員としての専門スキルの向上を支援するため、研修機会の確保、情報提供、地区公民館同士の定期的な情報交換の場を設ける。
 - 市職員が研修会等に積極的に参加するなどして専門スキルを高め、また、地域に出向いて地域の特性や強みを理解しながら、地区公民館事業運営への指導・助言を行う。
- (3) 地域学校協働活動の推進
- 地域学校協働本部を中心に、地域学校協働活動推進員、協働教育担当者、地域の方々などを対象にした研修会の開催や情報共有の機会を設け、活動への理解の促進と家庭・地域・学校が丸となって取り組みの充実を図る。
 - 学校支援を通して、充実した学校教育を支援する。
 - 放課後子ども教室を実施し、子どもたちの安全・安心な放課後の居場所の確保と異年齢交流による子どもの自主性と創造性を育む。
 - 地域学校協働活動の取り組みを通して、地域住民や各種団体の主体性や自主性を育み、地域全体の教育力の向上と地域の活性化を図る。
 - 家庭教育支援チームなどと連携し、宮城県版「親の学びのプログラム」を活用した出前講座の実施等による家庭教育事業を推進し、全ての親が安心して子育てや家庭教育が行えるように支援する。
- (4) 青少年活動の推進
- 社会体験・自然体験・世代間交流を取り入れた充実したプログラムによるわんぱく教室を開催することにより、子どもたちの健全な育成と、ジュニア・リーダーの加入に繋げる。
 - 次世代を担う青少年がたくましく思いやりのある人間に成長することを支援し、将来の担い手として、地域をつくる社会の一員になることを目指して、ジュニア・リーダーの育成と活用を推進する。
 - 未来を担う子どもたちが、ふるさと「白石」に誇りと愛着の醸成ができるよう、楽しみながら地域に興味や関心が持てる機会の拡充に努める。
- (5) 読書活動の推進
- 家庭・学校・地域・図書館等が連携しながら、児童・生徒が読書に親しむ機運を高めるとともに、読書をとおして心豊かな生活ができるように施策や環境の整備に努める。

2 文化芸術活動の振興と歴史遺産・伝統文化の継承・活用体制の充実

(1) 文化芸術活動の推進

- 地域の歴史・風土等を反映した個性豊かなまちづくりを推進するため、市民の多様な文化芸術活動や普及活動を支援する。
- 優れた文化芸術に触れる機会を確保し、古典芸能伝承の館碧水園など文化施設の積極的活用を推進する。

(2) 歴史遺産・伝統文化の継承と活用の推進

- 歴史遺産・伝統文化の散逸と滅失を防ぎ、広く市民の理解を得るよう啓発するため、資料を記録化し、各種媒体を用いて情報発信をする。
- 歴史遺産や伝統文化を展示・収集・保管する博物館の早期建設に向け、資料の所在調査や普及活動を実施する。
- 他の機関・団体等と連携しながら、歴史遺産等の価値を理解し、魅力を発信する人材を育成する。

3 生涯にわたるスポーツ活動の推進

(1) 生涯スポーツの推進

- いつまでも健康で明るく活力に満ちた生活を送ることができる「市民総スポーツ社会」の実現に向けて、「だれでも・いつでも・どこでも・いつまでも」気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツ環境の充実に努める。
- スポーツ推進委員や学校体育と連携し、各種大会やスポーツ教室等の開催を通じ、地域や学校に根ざしたコミュニティスポーツを積極的に推進し、市民の健康増進と体力・運動能力の向上を図る。

(2) 総合型地域スポーツクラブの創設

- 地域住民のスポーツ活動をささえ、スポーツを通じた地域コミュニティを構築するための活動拠点となる「総合型地域スポーツクラブ」の創設を目指し、検討を行う。

(3) スポーツ団体及び指導者の育成強化とスポーツ人口の拡大

- スポーツ協会やスポーツ少年団を中心とするスポーツ団体及び指導者の育成強化に努め、スポーツ人口の拡大を図る。

4 図書館サービスの充実

- 地域の情報拠点として、基本的サービスである資料提供サービスをはじめ情報サービス、課題解決支援サービスの充実を図る。
- 郷土資料と行政資料を収集し、市民の郷土史研究や地域課題の解決に資する。
- 学校図書館との連携を深め、図書館サービスの効果的な活用を推進する。
- 「第四次白石市子ども読書活動推進計画」を実践する。

教育環境の整備

1 施設設備や教具等の充実と効果的な活用

(1) 施設設備の整備

- 安全な施設設備の整備を図る。

(2) 施設設備の適正管理

- さまざまな災害に備えた施設設備の充実に努める。
- 環境負荷の軽減に配慮した施設設備の適正な管理を図る。

(3) 子どもの特性に合わせた教育環境の整備

- ICT機器の利活用のための教育環境の整備を図る。

- トイレの洋式化率向上を目指す。
- 障がいのある児童・生徒の実態を考慮した施設・設備の整備を図る。

(4) 緑化・美化運動による教育環境の整備

- 各学校の環境を活かした個性ある緑化・美化による教育環境の整備促進を図る。

2 危機管理体制の強化

(1) 危機管理体制の強化と学校事故再発防止に向けた安全教育の徹底

- 東日本大震災や令和元年東日本台風を教訓として地域の実情に沿って見直した学校安全マニュアルにより、防災教育を強化する。
- 不審者侵入や自然災害等に対応した児童・生徒の安全確保と個人情報管理等の危機管理体制の強化を図る。
- 各学校の状況に応じた避難訓練と日常的な指導により、児童・生徒の危機予測能力及び危機回避能力を養う。
- 「しろいし安心メール」を活用し、児童・生徒の安全や安心に努める。

(2) 情報教育に係る設備等の整備充実

- 学校コンピュータ管理基準の徹底及び個人情報の管理に努める。
- 1人1台端末、教師用端末及び関連機器について、白石市立小中学校情報セキュリティ対策基準に基づいた保管及び管理を徹底する。
- 学校ホームページの積極的な運用を図り、地域及び家庭に学校の取り組みや子どもたちの様子について伝えるよう努める。

基本事業	教育環境の整備	担当課	学校管理課施設係
事業名	学校施設環境整備事業		
重点施策 (白石市の教育より)	1 施設設備や教具等の充実と効果的な活用		
事業の目的・目標	より良い環境で教育を受けることができるよう、学校施設及び設備の適切な維持管理を行い教育環境の充実を図る。		
1. 令和4年度予算額	15,677千円	2. 令和3年度決算額	16,431千円
3. 令和4年度の事業内容	<p>○児童生徒の安全安心を最優先に考え、施設小・中学校及び幼稚園の定期的な保守点検及び修繕等により、維持管理を行う。 (当初予算計上の資料として、各学校、幼稚園に前年度夏に施設の修繕要望調査を行っている。限られた財源であるので、必要性・緊急性を判断しながら業者から見積書を徴収し、当初予算に計上している。また、随時発生する修繕要望についても、必要性・緊急性を勘案しながら、補正予算により対応している。)</p> <p>○令和3年4月27日に発生した白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故を受けて、再発防止に取り組む。 ○トイレの洋式化率の向上を目指す。</p>		
4. 事業の実績	<p>○当初予算(修繕費)にて24件の修繕を行い、補正予算により必要性・緊急性などを勘案して121件修繕を行った。また、その他、簡易な修繕は、各学校に配当している予算で対応した。 ○白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故を受けて、定期的に専門的な安全点検を行う計画を作成し、本年度より一般社団法人宮城県建築士会白石刈田支部の協力による点検や市技術職員による点検を行った。 ○トイレの洋式化については、小学校3校で5基、中学校1校で2基、合計4校で7基を改修した。</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 ○ 必要性・緊急性を勘案しての令和4年度当初予算及び補正予算による修繕については、全て完了することができた。 ○ 学校施設等安全点検の計画を作成し、専門的な安全点検を行うとともに、市教委と教職員が合同で安全点検を行い、安全点検方法について適切かつ具体的な知識を身に付け、各学校における安全点検の充実を図った。 ○ トイレの洋式化は、計画どおりに改修し、小中学校の総数321基中193基の洋式化が完了し、洋式化率は60.1%となった(令和3年度57.9%)。</p> <p>【課題】 施設設備の経年劣化による老朽化が進んでいる。屋根の雨漏りや水道管の漏水、設備機器などの故障が発生した場合、出来る限り速やかに対応はしているが、予防的な修繕にまで手が回らない。急激に少子化が進んでいる現状を踏まえ、今後の学校教育、保育について検討段階にあるが、児童生徒の安全安心を最優先に考え、「白石市学校教育施設個別施設計画(令和3年3月策定)」を考慮しつつ施設の維持管理や長寿命化を図って行く必要がある。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	<p>限られた予算の中で、トイレの洋式化等必要性和緊急性を分析し、優先順位を付け確実に実施し、子ども達が安心して過ごせる環境整備を行う姿勢は評価できます。 また、老朽化した施設が多数あることにより、予防的な修繕まで手が回らない部分もあるかもしれませんが、大事な今は必要なものに対応する事だと思います。 学校の安全点検については、自助共助の大切さを理解し、専門家の点検に加え、PTA活動の中でも取り入れており、保護者と共に子ども達を守る姿勢が伝わってきます。 今後も継続し続けてほしいと思います。</p>		

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課
事業名	学力向上プロジェクト事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進 (3)学習指導の充実		
事業の目的・目標	<p>○学力向上を図り、本市の将来を担う子どもたちの「生きる力」を高めることを目指す。</p> <p>・「学力向上グランドデザインに則り、児童・生徒の学力の向上を図る。</p> <p>・学力・学習状況調査等を踏まえ、その課題を明確にして学習指導等に生かす。</p>		
1. 令和4年度予算額	9,524千円	2. 令和3年度決算額	10,258千円
3. 令和4年度の事業内容	市独自の学力調査を実施するほか、令和元年度から3年間にわたり受託した宮城県の「学力向上マネジメント支援事業」を踏まえた本市「学力向上グランドデザイン」の取組を基に、学力向上におけるPDCAサイクルを推進し、学力向上を図っていく。		
4. 事業の実績	【白石市学力調査の実施】 埼玉県との共同実施による白石市学力・学習状況調査を5月に実施したほか、12月には標準学力調査を小・中学校全学年において実施した。		
	【教員研修会の実施】 5月13日：学力向上に係る管理職研修会 9月9日：学力向上推進委員研修会 10月4日：AIドリル授業活用研修(中学校視察) 11月10日：白石市学力向上研修会◎(中堅教員対象) 1月25日・26日：白石市学力向上研修会◎(25日：小学校、26日：中学校)		
	【各種検定補助、中学校校内実力テスト実施に対する補助】 ・漢字検定：2回(のべ414人)、数学検定：2回(のべ211人) ・中学校実力テスト(1年：2回、2年：3回、3年：5回)		
5. 事業の成果・課題等	【成果】 ・非認知能力と学力の関係について全市教員の理解が図られ、その視点で学力向上を推進していくという意識の高まりは成果と捉えている。特に、学力調査の結果から学力の伸びと非認知能力の変容を基に、授業改善及び個に応じた指導の充実につなげることができた。また、結果分析を基に各校での学習指導の改善及び児童生徒一人一人の「つまずき解消」の手立ての構築・実施など、学力向上におけるR-PDCAサイクルが確実に実施されていた(教師意識、学力向上推進委員会議)。 ・年度当初に学力向上に係る管理職研修の実施により、全市内小中学校が共通理解のもと取組が推進されたことは学力向上の一要因と考える。 ・過去に受検している児童生徒が再度、受検に申し込むことが認められ、このことは学びへの意欲、挑戦意欲の向上と捉えられる。また、保護者の経済的負担の軽減にもつながるものであった。 ・今年度はAIドリルに関して中学校に加え、小学校も11月より使用できるように整備した。5教科に対応しており、児童生徒一人一人のつまずき解消、発展的な取組など、個に応じた学びの支援として有効活用を図った。		
	【課題】 ・令和2年度(中学校は令和3年度)より完全実施となった学習指導要領、令和の日本型学校教育を踏まえた授業(個別最適な学び、協働的な学び、ICTの活用等)を一層展開していくことが必要であり、これまでの授業の在り方の転換を図ることを主たる課題・改善としていく。 ・学力向上に相関すると示されている非認知能力面の具体的対策を一層充実させ、自己効力感、学びに向かう姿勢等の向上を図り、学力向上を推進していく。 ・協働的な学びにおいて、人数が少ない学級においては、オンラインなどで授業交流を行うなど、工夫した取組を検討し進めていく。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>非認知能力は非常に大事だと思います。そのような意味で、自己肯定感ではなく自己効力感に着目した学力調査を効果的に活用していることが学力向上に結び付いたのだと思います。</p> <p>その取り組みが、トップダウンから各校の校長はじめ教職員等が自主的に取り組み出すというように変容したことも結果的に子ども達の学力向上につながったと思われます。</p> <p>これからも非認知能力を含め子ども達の心、やる気や意欲に目を向けさらなる学力向上を図り続けることが大事になると思います。</p>		

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課
事業名	国際理解教育推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進		
事業の目的・目標	児童生徒に国際的な視野と感覚及び英語による実践的コミュニケーション力を身に付けさせる。		
1. 令和4年度予算額	28,441千円	2. 令和3年度決算額	29,565千円
3. 令和4年度の事業内容	令和3年度より文部科学省の教育課程特例校(通称:英語特区)の指定を受け、特別な教育課程の編成を行い、小学校低学年での外国語活動及び中学校1・2年生でのコミュニケーションを重視した活動である「しろいしイングリッシュ」を実施した。 令和4年度は、年度当初から派遣会社より5名、市直接雇用1名の6名体制で市内全小・中学校及び幼稚園・保育園(市立・私立)にALTを派遣し、外国語・国際理解教育の強化を図った。		
4. 事業の実績	各学校のALT年間配置日数(指導時数)【令和3年度】 白一小152(469) 白二小138(524) 越河小41(220) 大平小73(217) 大鷹沢小82(270) 白川小65(197) 福岡小49(213) 深谷小49(190) 小原小中76(244) 白石中196(367) 福岡中106(271) 東中206(799) 第二幼19(38) 私立幼稚園・(市立・私立)保育園22(24) 合計1,274(4,043)		
	各学校のALT年間配置日数(指導時数)【令和4年度】 白一小153(496) 白二小162(532) 越河小43(214) 大平小77(220) 大鷹沢小78(256) 白川小67(217) 福岡小54(204) 深谷小47(149) 小原小中83(269) 白石中203(433) 福岡中99(190) 東中208(705) 第二幼20(40) 私立幼稚園・(市立・私立)保育園26(44) 合計1,320(3,969) ※ 学級数減・複式化の影響で、複数校で指導時数が減少したが、全体の配置日数は増加している。		
5. 事業の成果・課題等	【成果】 ALT6名体制で学校等への派遣を実施したことにより、各校・園に対して実質的に令和3年度を上回る配置が可能となり、教育課程特例校として、ALTを授業や学校行事等で効果的に活用する機会を増やすことができた。また、幼稚園や保育園へのALT派遣も積極的に実施し、小学校就学前からの途切れない英語教育の推進を図ることができた。このほか、ALT派遣会社の提案により、福岡中学校において海外の学校とのオンライン交流も行うなど、生きた英語を学ぶ機会の増加により異文化に対する理解を深めることにつながった。 「しろいしイングリッシュ」に対する保護者アンケートにおいても、関心を高めることにつながっているなど、肯定的な回答が高い結果であった。 【課題】 既存の外国語活動に加えて、教育課程特例校としての取り組みをより一層推進するため、学校間の情報共有や、市教委・学校等・派遣会社との調整・連携を更に強化するなど、外国語・国際理解教育の充実改善に向けた検討を今後も計画的に進めていく必要がある。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	小中学生にとって英語に触れる機会は、普通は学校の中しかない状態だと思いますが、白石市は英語特区指定を受けALTの充実など、ネイティブな英語に触れる取り組みを実施していることは、大変素晴らしいことだと思います。 これからも、実践的コミュニケーションを重視した生きた英語に取り組んでいただくと、より一層、学校での英語教育の基盤になると思います。 さらに、実践的コミュニケーション能力の具体的なゴールを設定し、見通しをもって子ども達の日常生活にも取り入れていただくよう工夫することで、白石イングリッシュを進めていただければと思います。		

基本事業	生徒指導関係事業	担当課	学校管理課
事業名	生徒指導関係事業		
重点施策 (白石市の教育より)	豊かな人間性を育む「心の教育」の推進、学校・家庭・地域が連携した「開かれた学校づくり」の推進		
事業の目的・目標	関係機関との連携による相談・支援体制を充実させ、不登校やいじめ、問題行動などの未然防止、早期発見・解決を図る。		
1. 令和4年度予算額	20,422千円	2. 令和3年度決算額	17,428千円
3. 令和4年度の事業内容	白石市子ども心のケアハウス、白石市青少年相談センター、仙南けやき教室、スクールソーシャルワーカー(SSW)、スクールカウンセラー(SC)の運用と活用。学び支援教室の運営。いじめ問題対策連絡協議会、いじめ防止大会の開催。		
4. 事業の実績	【令和3年度】 ケアハウス:支援児童生徒実人数134名(学校復帰児童生徒実数1名)、保護者支援総数128名 相談センター:相談件数19件、街頭巡回指導(声かけ運動)件数99件(376名) 仙南けやき教室:通所者6名、相談件数109件 スクールソーシャルワーカー:支援児童生徒数31名、訪問活動回数381回 スクールカウンセラー:相談件数 小学校児童107件、教員30件、保護者383件 相談件数 中学校生徒347件、教員7件、保護者131件 学び支援教室:利用者数 白石二小19名、白石中28名		
	【令和4年度】 ケアハウス:支援児童生徒実人数195名(学校復帰児童生徒実数5名)、保護者支援総数241名 相談センター:相談件数32件、街頭巡回指導(声かけ運動)件数50件(146名) 仙南けやき教室:通所者6名、相談件数98件 スクールソーシャルワーカー:支援児童生徒数30名、訪問活動回数213回 スクールカウンセラー:相談件数 小学校児童177件、教員46件、保護者378件 相談件数 中学校生徒263件、教員13件、保護者162件 学び支援教室:利用者数 白石二小4名、白石中19名		
5. 事業の成果・課題等	【成果】 不登校児童生徒への支援の目的が学校復帰から社会的自立へとシフトする中、各機関への相談件数や支援者数は増加傾向にあり、問題を抱える児童生徒や保護者へ積極的に関わっていることの表れであると考え。令和2年度からSSWの活動拠点を子ども心のケアハウスに置き、ケアハウスSVと連携を図りながら、学校や家庭の要請に柔軟に対応できるようになった。 令和3年度から、県の「不登校等児童生徒学び支援教室拡充事業」に参加し、不登校児童生徒への支援を目的とした「学び支援教室」を白石第二小学校と白石中学校に設置し、社会的自立に向けた取組を行った。令和4年度には条例等を整備し、子ども心のケアハウスを「白石市教育支援センター」として位置付け、学校や関係機関等とより強固な連携を図りながら児童生徒や保護者への支援を行った。「いじめ防止大会」はコロナ禍のためオンラインでの実施となったが、各学校の主体的・積極的な取り組みの情報交換ができた。 令和4年度は県の「行きたくなる学校づくり」事業に参加し、東中学校区において不登校未然防止に努め、新規不登校出現数を抑えることができた。また、不登校特例校の開校準備を推進し、令和5年4月、19名の児童生徒が在籍し開校に至ることができた。		
	【課題】 不登校児童生徒は毎年増加しており、市としても将来的に引きこもり等の大きな問題となるのが危惧されている。学校や関係機関、民間団体とより強力な連携を図り、個々に応じた見立て(アセスメント)による支援を行うことができるよう、「教育支援センター」としての機能を有した心のケアハウスの支援体制の強化、不登校特例校の充実等、関係する施設の一層の連携強化を図っていくことが重要である。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	実績を見るとケアハウスの相談件数が年々増えているということは、保護者がケアハウスを信頼している証で、大きな存在となっていることが思料されます。これからも、各機関が連携し進めてほしいと思います。 不登校に関して様々な支援・対策はありますが、学校側は子ども達や保護者に対しどのような支援を提供すればよいか、その対応に不十分な部分もあると思います。そのような意味でもきぼう学園の存在は大きいと思います。 きぼう学園開校後に訪問させていただきましたが、子ども達が本当に喜んで登校しており、すでに子ども達の単なる居場所ではなく活動場所となっており、素晴らしいと感じました。これも教育委員会及び学校等の連携による成果だと思えます。		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課生涯学習係
事業名	地域学校協働活動推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	協働教育の推進 2-(6)-①②		
事業の目的・目標	地域と学校が連携、協働して、子ども達の成長を支え、地域を創造する活動を推進する。		
1. 令和4年度予算額	5,013千円	2. 令和3年度決算額	3,866千円
3. 令和4年度の事業内容	<p>家庭教育支援活動・学校教育支援活動・地域活動及び放課後子ども教室を中心とした事業の推進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭教育支援 <ul style="list-style-type: none"> ・市主催「親の学びプログラム」出前講座の開催 ○ 学校教育支援 <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティア派遣・職場体験学習の支援・各種研修会の開催・広報誌の発行 ○ 地域活動支援 <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動「わんぱく教室」の開催・白石市生涯学習フェスティバル事業の実施・「家庭の日」推進の取り組み・ジュニアリーダー研修及び派遣事業 ○ 放課後子ども教室 <ul style="list-style-type: none"> ・越河小学校・第一小学校・第二小学校で実施、第一小及び第二小については平成30年度より開設、児童クラブとの一体型及び連携型で運営 		
4. 事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア派遣学校数：小学校及び中学校計13校(13校)、市内幼稚園1園(市内幼稚園1園) ・年間活動日数：第一小208日(213日)、第二小233日(221日)、越河小44日(39日)、大平小14日(12日)、大鷹沢小216日(216日)、白川小21日(5日)、福岡小241日(243日)、深谷小32日(30日)、小原小51日(47日)、白石中74日(29日)、福岡中42日(38日)、小原中21日(13日)、東中3日(19日)、第二幼稚園9日(8日) ・家庭教育学習講座の実施数：5校(1校) <p>※ ()の数値は昨年度</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <p>標記事業は平成24年度より国の補助事業である「協働教育プラットフォーム事業」として5年間実施し、平成30年度より「地域学校協働活動」として国の補助事業を活用し実施している。これまでの実績を踏まえ、地域活動支援では事業の周知も計られ参加者が増えている。学校教育支援ではまだまだボランティアの人手は必要ではあるが、校外の活動へのボランティア派遣依頼も増え、多くの場面で活動していただいております。放課後子ども教室・家庭教育支援は継続して実施できた。</p> <p>【課題】</p> <p>全国的な傾向ではあるが、少子化が進み、学校の統廃合により特色ある教育活動・伝統文化の継承が困難となり、地域コミュニティの衰退も懸念される現状である。今後、地域まちづくりの核として活動しているまちづくり協議会と協力して、地域住民と子ども達とその保護者を結びつける活動を伝統文化の継承等の事業と結びつける等の工夫をして事業の実施を行い、地域コミュニティの再構築を目指しながら今後も進めていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	<p>この先学校のあり方は変わっていくと思いますが、たとえ地域に学校が無くとも子ども達はそこに住んでいます。住んでいるということは、学ぶ場所が違って地域との連携は続いていき、必ず新しい方向性を探っていくことになると思います。</p> <p>例えば齋川小学校が白石二小に統合された後に、齋川公民館が全国表彰されたような活動は、子ども達も巻き込んでの地域活動であり、とても素晴らしい活動であると思います。このような活動を行う中で、子ども達の非認知能力についても、生まれるものではないかと思えます。家庭と学校そして地域の連携を三本柱とし、それを社会教育として支える構図は非常に良いものと思えます。</p> <p>これからも継続し進めてほしいと思えます。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課文化財係
事業名	史跡環境整備事業、市内遺跡発掘調査等事業		
重点施策 (白石市の教育より)	芸術文化活動の振興と文化財保護思想の普及及び保護体制の充実 2-(7)-◎		
事業の目的・目標	<p>市内に所在する文化財に説明板・標柱を設置し、地域の方や来訪者にその存在を周知するとともに、地域の文化財に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>遺跡の発掘調査を実施することによりその状況を把握し、各種開発事業による遺跡の破壊や滅失を防ぎ、将来へ継承する。</p>		
1. 令和4年度予算額	16,249千円	2. 令和3年度決算額	17,792千円
3. 令和4年度の事業内容	<p>史跡環境整備事業では、遺跡が所在していることを分かりやすくするために新たに標柱を設置したほか、風雨にさらされ文字の判読が難しくなった説明板・標柱を塗り替え、更新した。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業では、住宅建築や太陽光発電設備設置事業などの予定地内において遺跡の有無を確認するための発掘調査を実施した。そのほか、大平にある古墳の測量調査等を実施した。</p>		
4. 事業の実績	<p>(令和4年度)文化財説明板および標柱の新設・塗り替え2件、発掘調査22件 (令和3年度)文化財説明板および標柱の新設・塗り替え10件、発掘調査20件</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 史跡環境整備事業においては、標柱新設・説明板更新により身近な地域に様々な文化遺産があることを周知することができ、その理解促進に役立った。 市内遺跡発掘調査等事業では、発掘調査によって遺跡の状態が把握され、開発事業者と遺跡保護に向けて円滑な調整ができた。また、開発事業による遺跡への影響を最小限に留めることができた。 特筆すべき点としては、本市が重要遺跡の内容解明のために発掘調査を実施し、文化財行政上貴重な取り組みとなった。</p> <p>【課題】 市内に所在する文化財説明板は約300箇所あり、昭和50年代に設置した説明板は経年劣化し、定期的な塗り替え・建て替えが必要である。また、看板が設置されている文化財そのものの状況把握も課題である。 市内遺跡発掘調査等事業は、令和4年度以降にスマートICや道の駅など大規模開発事業が複数予定されているが、対応できる職員の十分な確保が大きな課題である。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	<p>シビックプライド醸成のため、文化遺産を大切にすること及び存在を情報発信することを目的に、新しく説明板を新設する取り組みは良いと思います。</p> <p>実際白石市には、数多くの文化財が存在し、説明板を整備するだけでも大変だと思います。</p> <p>以前より海外の方が多く白石市へ来ている状況にあるため、QRコード等により英語と日本語で説明するなど、海外の方にもっと白石市の文化財を発信しても良いのではと思います。</p> <p>今後、スマートICなど、大規模な発掘も始まると思うので、大変な作業になると思いますが、粛々と進めてほしいと思います。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課スポーツ振興係
事業名	生涯スポーツ推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	3 生涯にわたるスポーツ活動の推進		
事業の目的・目標	いつまでも健康で明るく活力に満ちた生活を送ることができる「市民総スポーツ社会」の実現に向けて、「だれでも・いつでも・どこでも・いつまでも」気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツ環境の充実を図る。		
1. 令和4年度予算額	6,180千円	2. 令和3年度決算額	1,147千円
3. 令和4年度の事業内容	<p>○ 誰でも、気軽に楽しむことができる「ニュースポーツ」の普及促進を図り、参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりを図ることを目的に、学校体育や地区公民館、社会福祉協議会などと連携し、年間を通じニュースポーツ移動教室を開催した。</p> <p>○ スポーツ推進委員と連携し、いきいきEnjoy教室を開催し、ニュースポーツを通じて体を動かす楽しさを見つけるとともに会員相互の親睦交流を図った。また、しろいし蔵王高原マラソン大会、市民綱引き大会を始めとした各種スポーツ大会を開催した。</p> <p>○ 白石市スポーツセンター管理運営業務(白石市スポーツ協会事業)及び学校施設開放業務</p> <p>○ 白石市グラウンド・ゴルフ場【若林弁天パーク】が完成し、生涯スポーツを通じた市民の健康維持・増進と地域活性化を図った。</p>		
4. 事業の実績	<p>○ ニュースポーツ移動教室 (R4実績)計15回開催(うち小学校10回、地区公民館等5回)、参加者(延べ)608名</p> <p>○ いきいきEnjoy教室 (R4実績)計22回開催 参加者(延べ)770名</p> <p>○ 各種スポーツ大会の開催 白石市ふるさとスポーツ祭、しろいし蔵王高原マラソン大会、市民体育大会、市民グラウンドゴルフ大会、市民・小学生シャフルボード大会、市民綱引き大会</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 ニュースポーツ移動教室の開催により、スポーツが苦手な子どもたちにとっても気軽に身体を動かすことの楽しさを知ってもらい良い機会となった。また、高齢者にとっても無理なく気軽に楽しむことができるスポーツであることから、事業目的である参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりに資することが出来たと思われる。</p> <p>【課題】 少子高齢化時代となり、スポーツをする子どもの数が減少、スポーツ少年団(チーム)の存続も危ぶまれてきている。この「ニュースポーツ移動教室」をきっかけとして多くの子どもたちにスポーツに対する興味を持ってもらうため、引き続き学校体育と連携して取り組んでいきたい。また、地域にとっても、コミュニティづくりの一環として、また健康寿命の延伸・医療費の抑制という効果も期待できることから、引き続き地区公民館や社会福祉協議会と連携してニュースポーツの普及促進に努めていきたい。さらに、ニュースポーツを継続して取り組める場所を含めた環境の整備を図っていきたい。併せて、グラウンド・ゴルフ場の利用促進を図っていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>子どもからお年寄りまでが参加できる生涯スポーツとして、ニュースポーツを推進していることは大変素晴らしいと思います。新設したグラウンドゴルフ場についても生涯スポーツとして気軽に始められる環境を整えていただき、子ども達にとっても良い刺激になるのではと思います。</p> <p>また、実績として子ども達の体力低下が著しいと言われる中で移動教室等の開催回数及び参加人数が増えていることは評価できます。</p> <p>これからも、子ども達とおじいちゃんおばあちゃんが一緒にプレイできる、生涯スポーツを続けてほしいと思います。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課総務係
事業名	中央公民館利用事業(貸館業務)		
重点施策 (白石市の教育より)	社会教育推進体制の充実 2-(1)-①		
事業の目的・目標	市民の自主的、主体的な学習活動の推進に努める。		
1. 令和4年度予算額	千円	2. 令和3年度決算額	千円
3. 令和4年度の 事業内容	中央公民館が地域の活動拠点として活発に利用されるよう各種団体と地域社会がもつ教育機能の有機的な連携を図り、学習機会や学習情報等の提供を行う。		
4. 事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用回数: (R3)1,562回 (R4)1,799回 ● 利用人数: (R3)20,649人(うち 主催事業 372人、社会教育関係団体 11,800人、その他 8,477人) (R4)27,326人(うち 主催事業 444人、社会教育関係団体 15,931人、その他 10,951人) 		
5. 事業の成果・ 課題等	<p>【成果】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用定員の抑制措置などを継続したものの、利用回数は対前年度比237回増(+15.2%)、利用人数は対前年度比6,677人増(+32.3%)となり、感染防止対策を徹底しながら、市民への学習機会や学習情報の提供に努めた。</p> <p>【課題】 引き続き生涯学習事業の推進や地域学習資源の発掘、活用の仕組みづくりを推進するとともに、引き続き、利用者のニーズに合わせた支援を充実させ、中央公民館の利用促進に努めていく。</p>		
6. 内部評価	A	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>実績が良い結果となったのは、中央公民館職員が貸館業務を一生懸命実施し利用者にも真摯に対応した成果が表れていると思います。</p> <p>中央公民館が果たしている役割の一つに、文化的活動の推進があると思いますが、これだけの市民のニーズがありコロナ禍の中にあっても、利用数が伸びているということは素晴らしいことだと思います。</p> <p>この様な取り組みを増やしていき、市民及び子ども達にも広めていければ良いと思います。</p> <p>引き続き頑張ってくださいと思います。</p>		

基本事業(基本方針)	学校教育の充実	担当課	学校給食センター
事業名	学校給食運営事業		
重点施策 (白石市の教育より)	1-(5)学校給食の充実と食育の推進		
事業の目的・目標	学校給食を通して食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせる。		
1. 令和4年度予算額	271,245千円	2. 令和3年度決算額	268,114千円
3. 令和4年度の事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食の充実を図り、安全で安心な給食を提供する。 学校給食残食調査を実施する。 実証実験に伴い夏季秋季冬季休業日の一部が登校日となり給食提供を実施する。 		
4. 事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒が正しい食事のあり方や望ましい食生活を身に付け、自らの健康管理ができるように「給食一口メモ」や「給食図鑑」の給食指導資料を提供し支援した。 児童・生徒の給食の摂取状況を把握し、今後の献立作成や給食指導の参考資料にするため学校給食残食調査(11/14～11/18)を実施した。 「令和の時代の新たな学校の在り方を探るための実証実験」で夏季冬季休業日の一部を授業日に振り替え登校日となったため給食提供を実施した。 		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「給食一口メモ」は、給食の時間に校内放送で読み上げお知らせしたり、担任が給食時に説明をしている。「給食図鑑」は、配膳場所等に掲示し子どもたちがいつでも見られるようにしている。 アレルギー対応食の給食を提供しているが、誤食の事故は無かった。 <p>児童生徒数と年間提供食数 小学校: 1,251名 254,073食 中学校: 801名 147,080食 幼稚園: 40名 450食</p> <p>うちアレルギー対応食提供の児童生徒数と年間提供食数 小学校: 6名 1,098食 中学校: 3名 288食</p> <ul style="list-style-type: none"> 残食調査による残食率[市内平均] ※ ()内は令和3年度の数値 小学校: 主食8.6%、主菜16.0%、副菜26.5%、食缶(汁物)11.2%、牛乳0.7% (8.1%、 16.9%、 25.1%、 13.5%、 0.9%) 中学校: 主食13.7%、主菜10.3%、副菜24.4%、食缶(汁物)14.9%、牛乳4.4% (12.3%、 12.9%、 23.8%、 13.3%、 5.5%) 実証実験実施校 小学校(7校実施): 夏季4日(小原小:夏季7日、冬季1日) ※ 大鷹沢小、白川小は除く 中学校(4校実施): 夏季8日(福岡中、小原中は7日)、秋季2日、冬季1日 <p>【課題】</p> <p>児童生徒が苦手意識を持つ献立についても食材の調理方法や味付け、また、組み合わせる食材を工夫し食べる機会を作ることで、成長に必要な栄養素の適切な摂取量を充足させていくのが肝要なことであると感じています。学校全体での指導や取り組みのみならず、家庭への働き掛けなど連携を深めていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>アレルギー対応食の提供で誤食が無かったことは、職員関係者が細心の注意を払われた賜物と思います。今後も、アレルギー対応や感染症対策等に配慮しながら、子ども達に必要な栄養を踏まえた給食提供を実施していただければと思います。</p> <p>最近、夏休み中に食事を満足に取れていない子ども達のニュースが連日テレビ等で流れているのを耳にし、この様な子どもの食の貧困問題が、豊かな日本において大変な問題だと思っています。</p> <p>白石市でも、この様な問題を抱える子どもがいると思いますし、学校給食が子ども達に果たす役割は非常に大きいと思います。</p> <p>令和4年度は、コロナや職員体制等の影響で、学校での栄養指導が思ったより実施出来なかったとのことでしたが、令和5年度は子どもの食の貧困問題を踏まえた栄養指導も併せて行っていただければと思います。</p>		

基本事業	社会教育の充実・教育環境の整備	担当課	図書館
事業名	図書館等利活用事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(2-(5)-②)・図書館の充実(3-(2)-①,②,③,④)		
事業の目的・目標	乳幼児から高齢者まで、すべての市民の生涯学習の場として資料や情報を収集、提供し「市民の役に立つ図書館」の実現に努める。		
1. 令和4年度予算額	31,821千円	2. 令和3年度決算額	30,358千円
3. 令和4年度の 事業内容	(1) 各分野の資料を収集、提供するとともに、利用者の視点に立った書架の整備を進めることで、市民の生涯学習活動を支援した。 (2) インターネット技術を活用した電子図書館や予約サービスを提供し、利用者の利便性の向上を図った。 (3) 移動図書館「こまくさ号」を運行し、学校と地域の読書活動を支援した。 (4) 図書館ボランティアの活動を推進し、市民協働による図書館環境の向上を図った。		
4. 事業の実績	(1) 貸出冊数は、一般書が49,345冊(-4,849冊)、児童書が44,315冊(-2,105冊)、視聴覚資料及び雑誌が6,879冊(-139冊)、合計100,539冊(-7,048冊)であり、貸出人数は22,835人(-1,371人)であった。 (2) インターネット予約サービスの利用者は、予約数908件(-41件)であった。 (3) 電子図書館の利用者は、アクセス数3,201回(-227回)、延べ貸出冊数2,655冊(-64冊)であった。 (4) 市内16箇所のサービスポイントにおいて、5,287冊(+88冊)の図書を貸し出した。また、20箇所の配本所に6,350冊(-23冊)の図書を配本した。 (5) 書架整理8人(+1人)、読み聞かせ14人(-3人)、図書館支援6人(+1人)のボランティアが登録し、延べ189回(+16回)の活動を行った。		
5. 事業の成果・ 課題等	【成果】 年間を通して各分野から2,806冊(+193冊)の資料を収集し、さらなる蔵書資料の充実に務めた。また、インターネット技術を活用した電子図書館や予約サービスも一定程度定着し、特に電子図書館については小学校における朝読書の時間での活用など、子どもの読書時間の増加に繋げることができた。 【課題】 コロナ禍がある程度落ち着き、感染拡大予防対策の在宅時における図書館需要が落ち着いたためか、前年度に比べ貸出関係の各数値は減少することとなった。今後、図書館利用の拡大に向けて「としょかんだより」やホームページを始めとしたデジタル技術を用いた利用促進のための広報の充実を図るとともに、コロナ禍で得た教訓を生かしながら学校、関係各所属及び図書館ボランティアとの連携をより強化して、子どもの読書活動や生涯学習活動を促進し、加えてレファレンス機能を始めとした図書館機能の充実を図ることで、より市民が利用しやすい図書館づくりに努めていく必要がある。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	貸出冊数の増減は大切なかもしれませんが、その本に対しどれだけ向き合うかも非常に大切だと思います。そこまで数字の増減にこだわる必要はないのではないのでしょうか。 図書館という場所は、子どもからお年寄りまでたくさんの方が集う場所ですので、様々なジャンルの本を揃えていただくと共に、人気の本はなかなか借りられない状況もあると思うので蔵書すべき冊数なども吟味し、ますます充実した図書館等利活用事業になって欲しいと思います。		

基本事業	社会教育の充実・教育環境の整備	担当課	図書館
事業名	図書館文化事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(2-(5)-①)・図書館の充実(3-(2)-②,③)		
事業の目的・目標	幼少期から本に親しむことにより、豊かな心、たくましく生きる力をはぐくみ、成長とともに得られる文化意識の基礎の充実を図る。		
1. 令和4年度予算額	— 千円	2. 令和3年度決算額	— 千円
3. 令和4年度の事業内容	(1) 6か月児ブックスタート 6か月児育児相談日に、読み聞かせボランティアの協力により絵本の読み聞かせを行い、絵本に触れるきっかけづくりを支援した。 (2) おはなしひろば アテネ2階の絵本コーナーにおいて、読み聞かせボランティアの協力により絵本、紙芝居の読み聞かせ等を行い、子ども読書活動を推進した。 (3) えほんであそぼう アテネ2階の絵本コーナーにおいて、読み聞かせボランティアの協力により、絵本の読み聞かせとテーマに沿った折り紙を折るイベントを開催した。また、大人向けにワークショップ形式の読み聞かせの会を設け、幅広い年代に向けて読書活動を推進した。 (4) 出前読み聞かせ 保育園、幼稚園及び学校等において、読み聞かせボランティアの協力により読み聞かせを行い、子どもの読書活動を推進した。		
4. 事業の実績	(1) 6か月児ブックスタート(6か月育児相談日に実施) 新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、担当課と協議の上、中止とした。 (2) おはなしひろば 開催回数: 13回 参加人数: 大人 25人 子ども 95人 ボランティア 24人 (-8回) (-7人) (-22人) (-10人) (3) えほんであそぼう 開催回数: 7回 参加人数: 大人 27人 子ども 26人 ボランティア 7人 (+2回) (+13人) (+8人) (+2人) (4) 出前読み聞かせ 開催回数: 50回 参加人数: 大人 146人 子ども 1,150人 ボランティア 89人 (+2回) (-11人) (-110人) (+11人) ※ (4)は数回の中止のみで前年より多く開催することができた。		
5. 事業の成果・課題等	【成果】 6ヶ月育児相談時の読み聞かせができない中、「えほんであそぼう」のイベントで赤ちゃん向けの読み聞かせを2回開催した。また、読み聞かせボランティアの積極的な活動により、保育園・幼稚園・小学校など出前読み聞かせ先の読書推進に対する理解と協力連携を得ることができ、幼児・児童が普段の生活の中で図書と触れる機会を提供し、子ども読書活動を推進することができた。 【課題】 「おはなしひろば」については、開催日が保育園や小学校の行事と重なってしまったことから季節行事と重複しないような日程調整が必要であるとともに、対象者である乳幼児及び保護者が、より興味・関心を持ってもらえるような開催内容とするよう、検討が必要である。 また、読み聞かせボランティアの登録者が減少し、高齢化も進んでいることから、新たなボランティアの獲得と育成を行う取り組みを実施する必要がある。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	読み聞かせの際に、子ども達が心を揺さぶられる場面を見たことがあります。その子ども達が成長し、自ら本を手に取り自分で読むようになる。そのような事を積み重ね感受性を高めていくものと思います。幼少期から本を読むということはとても大切な事ですし、続けて欲しい事です。是非これからも良い本を揃えていただくと共に読み聞かせ等の幼少期から本に親しむことができる事業を継続して欲しいと思います。 読み聞かせボランティアの登録者が減少しているということが非常に残念ですので、ぜひ登録者数を増やす取り組みを考えて欲しいと思います。		